

平成 2 0 年 1 1 月 8 日

外 務 大 臣  
中 曾 根 弘 文 殿

財 団 法 人 国 際 開 発 救 援 財 団  
理 事 長 飯 島 延 浩

平成 2 0 年度国際開発協力関係民間  
公益団体補助事業完了報告書

平成 2 0 年 6 月 1 3 日付第 2 6 号をもって補助金の交付決定を受けた標記の事業が完了したので、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律第 1 4 条前段の規定により、関係書類を添え、下記のとおり報告します。

記

- 1 . 補助事業の名称 : プロジェクト評価事業
- 2 . 補助金の交付決定額及びその精算額 : ( 別紙のとおり )
- 3 . 補助事業の実施期間 : 平成 2 0 年 7 月 9 日 ~ 平成 2 0 年 1 1 月 7 日
- 4 . 補助事業の成果

要約 : 当事業では、評価の質と客観性を確保するため、社会開発プロジェクト評価の専門的な知識及び経験を有する調査員と当財団本部からの職員、計 4 名で評価チームを構成し、現地に出向き、フィールド調査を実施した。

2 週間余りに及んだフィールド調査では、プロジェクト資料からの情報・データ収集、プロジェクト受益者並びに政府関係機関からの聞き取り調査、そして、その分析を行なったが、ほぼ予定通りに調査を行うことができたと同時に、プロジェクト評価をするうえで、十分かつ有益な情報やデータを得ることができた。

分析結果は、当調査期間中にプロジェクトの受益者である地域住民やベトナム政府関係機関の代表へフィードバックし、その内容が的確かつ妥当であるか確認を行った。その後、調査内容とその分析結果を、英語及びベトナム語の 2 ヶ国語で報告書にまとめた。

この報告書は、当プロジェクトの経験が当財団の今後のプロジェクトのみならず、ベトナム内外の他の開発援助プロジェクトにも参考となることを期待し、ベトナム及び日本の関係機関に配布した。

詳細説明 : 評価報告書 ( 英語、ベトナム語 )

以上

## 別紙

交付決定の内容			
補助対象経費の区分	補助金の額 (A)	支払実績額	確定額 (B)
①調査員派遣旅費	¥796,744  (¥807,155より約1.3%減 下記③へ流用)	¥718,927	¥718,927
②調査員人件費	¥336,000	¥220,278	¥220,278
③報告書作成費	¥64,411  (¥54,000より約19.3%増 上記①より流用)	¥64,411	¥64,411
④事業管理費	¥287,900	¥183,649	¥183,649
⑤外部監査	¥48,000	¥0	¥0
小 計	¥1,533,055	¥1,187,265	¥1,187,265

備考：確定額は補助金の額と支払実績額のいずれかの低い額とする。

補助対象外 経費の区分	所要額 (自己資金)	支払実績額 (C)	摘要
①調査員派遣旅費	¥75,520	¥0	
②調査員人件費	¥1,171,580	¥1,036,184	
③報告書作成費	¥0	¥0	
④事業管理費	¥287,840	¥153,295	
⑤その他（補助対象経費 の差額）	¥0	¥0	
小 計	¥1,534,940	¥1,189,479	
補助金使用実績 (B)	¥1,187,265	自己資金使用実績 (C)	¥1,189,479
総事業額 (B)+(C)	¥2,376,744		

## ベトナム国ナムザン郡地域総合開発プロジェクト プロジェクト評価事業報告書 - 詳細説明

### 【当該プロジェクトの概要】

財団法人国際開発救援財団(FIDR)は2001(平成13)年11月から2008(平成20)年3月までの6年5ヶ月にわたり、ナムザン郡地域総合開発プロジェクトを実施した。当プロジェクトが目指したのは、「住民及び同地域の政府関係機関の積極的な参画の下、現存する諸問題(農業、保健・医療、教育分野などにおける問題)の改善し、解決を図ることによって、人々の生活基盤が安定すること」である。プロジェクト対象はカジー社及びタピン社における全17村の住民約5,400人である。

### プロジェクト目標

1. 地域住民の生活水準が向上する - 特に、農業、畜産及び伝統手工芸の推進による地域経済の向上並びに食糧安全保障が改善される
2. 人材開発-事業活動の実施及び運営を通し、地域住民や地域の指導者並びに地域内組織が技術・知識・経験を得ることによって、地域の人々による自発的・持続的な開発が継続される

### 期待される成果および活動内容

成果1: 農業生産が向上し、食糧事情が改善される

- ・ 農業普及員育成、給与補助
- ・ 地域住民への農業技術トレーニング
- ・ 米銀行設置、穀物計量用秤供与
- ・ 種子銀行・高収量品種・果樹の導入
- ・ 傾斜地農法導入、試験農園支援
- ・ 農具・鍛冶道具供与
- ・ 家庭菜園の設置
- ・ 農業インフラ(灌漑用水路等)整備

成果2: 畜産振興によって住民の収入が向上する

- ・ 草の根獣医育成、器具薬剤供与
- ・ ワクチン・薬剤支援
- ・ 地域住民への畜産技術トレーニング
- ・ 家畜銀行(牛・豚等)の設置、家禽供与

成果3: 伝統手工芸振興によって住民の収入が向上する

- ・ 織物グループへのトレーニング(グループ運営・会計・マーケティング・製品デザイン等)

- ・ 原材料・器具支援

成果4：保健医療状況が改善される

- ・ 保健所スタッフ・村落保健員相談員の再トレーニング
- ・ 郡病院・保健所への機材供与
- ・ 地域住民への知識普及活動
- ・ 子どもと妊産婦の栄養改善活動(栄養ボランティアと伝統助産婦に対するトレーニング・各村での調理実習・知識普及活動等)

成果5：教育水準が向上する

- ・ 中学校・高等学校教諭の再トレーニング
- ・ 補助教材・図書供与
- ・ 村小学校建設
- ・ 成人向け識字教室の開催

成果6：地域住民が新たな職を得られる技能を修得する

- ・ 職業訓練教師のトレーニング
- ・ 職業訓練のための短期契約トレーナー給与補助
- ・ 職業訓練センター器材供与

成果7：プロジェクト管理委員会メンバーが地域開発プロジェクトを実施するのに十分な能力を持ち、地域社会の自立的かつ持続的な発展を指導していくことができる

- ・ プロジェクト管理委員会メンバーへの地域開発トレーニング、運営手法トレーニング
- ・ 他プロジェクト地へのスタディツアー

成果8：地域住民がプロジェクト活動を通じて経験を得、自ら活動を続け、改善していく能力を身につける。

- ・ モニタリング・年度レビュー、フォローアップの実施
- ・ 参加型農村調査(PRA/PLA)の実施
- ・ プロジェクト評価(中間評価・終了時評価)の実施

【プロジェクト評価事業詳細】

評価団構成

- ・ チームリーダー： Peter Truscott (参加型評価、社会開発・農村開発専門)
- ・ Do Duc Khoi (参加型評価、社会開発・農村開発専門)

- ・ 依知川弘太郎(FIDR:海外事業チームリーダー)
- ・ 前田桂子(FIDR:海外事業担当)

評価日程 : 平成 20 年 7 月 9 ~ 25 日(ベトナムにおける現地調査)

### 事業成果:

当事業では、評価の質と客観性を確保するため、社会開発プロジェクト評価の専門的な知識及び経験を有する調査員と当財団本部からの職員、計 4 名で評価チームを構成し、現地に赴き、フィールド調査等を実施し、当該プロジェクトの成果を評価することであった。

聞き取り調査は、プロジェクトの直接受益者である村人約 130 人、活動の計画実施を主体的に行なった地方行政職員 15 名、そしてプロジェクトの実施にかかわってきた FIDR スタッフ 6 名の他、クアンナム省の関係機関にも面会した。

当評価事業によって、以下の点が明確となった。

#### 1. プロジェクトがもたらした最大の成果～人材の能力向上

地域住民とベトナム政府関係機関は共通して、当プロジェクトをもたらした最大の成果は、「地域住民が高いレベルで主体性と持続性の意識を持つようになった」という見解をもっていた。個別インタビューやグループ・ディスカッションからも、プロジェクトが人材育成に力を入れてきたことが、この変化をもたらした大きな要因であると判断できる多くの事例が挙げられた。特に、人々の間で向上したと挙げられた能力は、「学ぼうとする意識とそれを実践する力」、「情報や経験を共有する習慣とそれを実践する力」、「村の意思決定プロセスにおける村人(特に女性)の参画の度合」、「問題解決能力」などである。さらに、プロジェクトを実施してきた FIDR ベトナム事務所のプロジェクトスタッフの地域開発プロジェクトを運営実施していくための技術・能力が向上したことも確認された。

このように、当プロジェクトでは、地域住民、地方行政機関職員、そして FIDR プロジェクトスタッフなど、プロジェクトに関わった人々の能力を強化させたという点において多大な影響を及ぼしたことが分かった。また、プロジェクト総支出実績は約 52 万ドルで、ベトナムにおいてプロジェクトとしては比較的小さい規模であることを考えると、そのもたらした成果の度合いは非常に大きいと、特にベトナム政府機関から評価されていた。

#### 2. より効果的なプロジェクト実施のための提案～当プロジェクトの経験より

当プロジェクトが様々な成果を達成したことを確認した一方で、評価チームは当プロジェクトにおける経験に基づき、今後 FIDR がよりよいプロジェクトを実施していくための教訓と提案を以下の通りに挙げた。

1. プロジェクトのあらゆる局面において、草の根の人々の参画を促す方針を引き続き維持すること

2. 米銀行活動に関して、様々な事例を研究し、草の根の状況に適した運営方法を検討すること
3. 将来、牛銀行活動を導入する場合には、透明性や平等性が確保され、また村のレベルで持続的な運営方法を検討すること
4. 土質の悪化や浸食、森林保護など環境に関する問題意識の向上を、農業農村開発局と協働し、人々に対して引き続き促すこと
5. 穀物の不作や家畜の死亡など農村部で起こりうるリスクに対して、村人が対応できる方法や仕組みを検討すること
6. 草の根の住民の益となる場合において、地域住民と政府・非政府組織との関係構築及び促進を促す役割を引き続き担うこと
7. 新しいプロジェクトにおいても可能な限り、伝統文化の継承につながる活動を見出し、積極的に促進すること
8. 引き続き、草の根のネットワークの強化に力をいれていくこと
9. 引き続き、省・郡・社のすべてのレベルの行政機関と円滑な関係を維持していくこと
10. プロジェクトの策定時に、測定可能な指標を設定すること
11. プロジェクト期間を通じて、比較できるデータを収集し、プロジェクトの実施運営やモニタリングに活用すること

上述の成果、教訓・提案以外には、当プロジェクトでは、当初職業訓練センターに対する支援もその一つとして計画されたが、ベトナム政府が当センターの支援を決めたことを受けて、その後、支援を取りやめた。そして、それは限られた資源で地域の開発を行っていく計画の中での状況に合わせた柔軟な対応であり、プロジェクトの目標達成の弊害にならないと同時に支援を重複させない(無駄に活用しない)ことにつながった。

評価活動の内容・結果の詳細については、評価報告書に下記の観点で取り纏めた。

### 評価報告書の目次

#### 要旨

1. プロジェクト概要
2. 評価のアプローチ及び方法
3. プロジェクト目標の達成状況
4. プロジェクトの妥当性
5. プロジェクトの効率性
6. プロジェクトのインパクト及び持続可能性
7. モニタリング、評価及び情報共有について

## 8. 得られた教訓及び提案

添付資料:

- (1) Terms of Reference
- (2) 評価活動スケジュール
- (3) 10 村における調査対象者一覧
- (4) 政府関係機関の調査対象者一覧
- (5) フォーカス・グループ・ディスカッションのガイドライン
- (6) 政府関係者に対する質問表
- (7) プロジェクトスタッフに対する質問表
- (8) 村におけるフォーカス・グループ・ディスカッションの結果
- (9) 政府関係者に対するインタビューの結果
- (10) プロジェクトスタッフに対するインタビューの結果
- (11) プロセスと仕組みに関するインパクトと持続可能性についての検証
- (12) プロジェクトの活動実績一覧
- (13) プロジェクト活動地地図
- (14) プロジェクト実施体系図





10の村を回り、村人たちからプロジェクトを通じて変わったことを、グループ・ディスカッションを通じて聞き取った。また、その結果は、村の人たちと共有し、内容が的確且つ妥当であるか確認した。



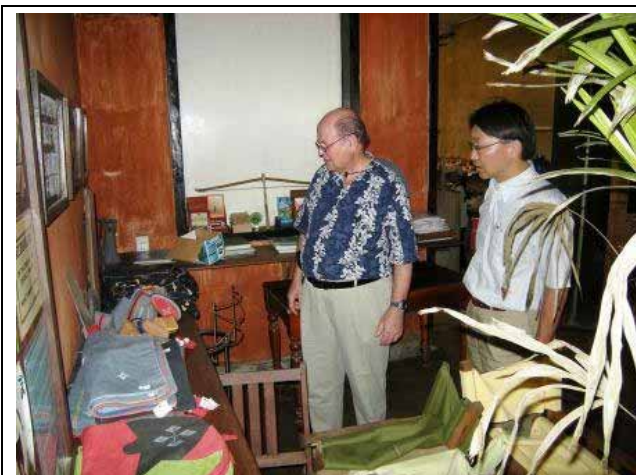
ベトナム政府関係機関の担当者たちからも当プロジェクトに対する見解を聞き取った。

省女性同盟副委員長（左から2番目）

省商業工業局長（左）



農業分野の成果を確認するために、実際に畑に足を運び、その実践の様子を視察した。



製品が販売されている店舗で、伝統手工芸活動の成果を確認した。



評価チームメンバー  
(左から)前田、依知川、Truscott、Khoi



評価チーム内で協議を重ね、各村での聞き取り調査がより効果的に行われるよう配慮した。



フィールドの聞き取り調査の分析結果は、地域やベトナム政府機関のリーダーに対してフィードバックし、内容の妥当性を確認した。

